

令和3年度 学校関係者評価報告書

令和4年3月16日現在

那覇市医師会那覇看護専門学校

学校運営委員会・評価委員会提出資

目 次

1 学校の理念、教育目標	1	基準7 学生の募集と受入れ.....	1 1
2 本年度の重点目標と達成計画	2		
3 評価項目別取組状況	4	基準8 財 務	1 2
基準1 教育理念・目的・育成人材像	5	基準9 法令等の遵守	1 3
基準2 学校運営.....	6	基準10 社会貢献・地域貢献	1 4
基準3 教育活動.....	7		
基準4 学修成果.....	8	4 令和2年度重点目標達成についての自己評価	1 6
基準5 学生支援.....	9		
基準6 教育環境.....	1 0		

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
教育理念 本校は、看護職に必要な人間への深い関心を示す豊かな感性と幅広い教養を育て、人々の健康生活を支援し、社会に貢献できる看護実践者を育成する。 その教育は、学習者の主体性を大切に学習者と教師が共に学問を探究し築かれる。 教育目的 本校は、看護実践者として人間力、判断力、実践力を身につけ、地域医療に貢献できる人材の育成をする。 1 人間の生命を尊び、一人ひとりの権利を守る倫理的行動がとれる。 2 他者との関係を築くことができる。 3 看護者に必要な知識・技術・態度を身につけることができる。 4 自律心・探究心を持ち、創造性を発揮できる。 5 地域社会に関心を持ち、保健・医療・福祉を考えることができる。 6 看護学を学び、自分の健康生活と人生の充実を考えることができる。	教育目標 1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を培う。 2 人間の健康と生活を、自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解する基礎的能力を培う。 3 一人ひとりの多様な価値観を認め、看護実践者として、対象の意思決定・自己実現を支援できる基礎的能力を培う。 4 看護者としての責任と義務を担い、職業倫理に基づいた行動決定をするための基礎的能力を培う。 5 看護実践者として、自律・探究・創造する能力を育み、将来にわたり、自己の成長と人生の充実を考えることのできる能力を培う。 6 看護の知識・技術・態度を活用し、人々の健康課題を明らかにし、看護の対象に対して科学的根拠に基づいて安全に看護実践できる基礎的能力を培う 7 あらゆる発達段階、健康段階及び障がいの状態に応じた看護を安全に実践するための基礎的能力を培う。 8 保健医療福祉制度と他職種の役割を理解し、協働するとともに、人々が社会資源を活用できるよう調整するための基礎的能力を培う。 9 国内外の動向に関心を持ち、社会の変化及び状況に応じた看護の役割を認識できる基礎的能力を培う。

2 本年度（令和3年度）の重点目標と達成計画

令和3年度重点目標	達成計画・取組方法
1 安定した学校運営 2 教育課程の円滑な運営 3 教職員の資質の向上 4 教育環境の整備 5 学生支援の強化 6 入学生・卒業生への支援 7 広報活動 8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 9 後援会及び同窓会活動の支援	(1) 安定した学校運営 ①教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定を図る。 ②均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努める。 ③自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし、更なる運営の安定化をめざし、自己点検・自己評価を継続的に実施し本校の特色ある教育活動及び教育全般等の結果については、ホームページ等で情報公開し発信していく。 ④学校の将来の在り方については「看護学校の将来を考える会」については、令和2年度末において休会としている。社会の流れを勘案し今後必要と判断した場合に委員会を再開し議論を進めていく。 (2) 教育課程の円滑な運営 ①外来講師、専任教員、臨地実習施設の確保・定着に努める。 ②教育実践においては、教育目的・目標の達成をめざして、ICTの活用や外部機関との連携で学習環境を整えることにより、生命の尊厳を基盤に看護職に必要な基礎的知識、技術、態度を培えるよう創意工夫した取り組みを行う。 ③実習指導者との情報交換、連携・協働を推進する。 ④2022年から実施される新カリキュラム完成に向けて取り組む。 (3) 教職員の資質の向上 ①教職員のキャリア開発を支援し資質向上を図る。 ②授業参観計画を立案・実施できるよう取り組んでいく。 ③教務主任及び看護教員養成講習会未受講者の研修派遣をする。 ④県内外で行われる研修会や教育研究学会等へはオンラインによる参加も推奨・支援していく。 ⑤キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を実施する。 (4) 教育環境の整備 ①ICT環境・インフラ整備を行い、オンライン授業がトラブルなく進められるよう学生の主体的な学習環境を支援していく。 ②教材備品の管理を徹底し、教材教具を積極的に活用し、学生の主体的な学習活動を支援する ③建物等の自主点検を定期的に行い破損防止、事故防止の強化を図り、保全管理に努める。 ④駐車場の整備、花壇やロビーの美化に努め、学生の情緒教育を促進する

令和３年度重点目標	達成計画・取組方法
	(５) 学生支援の強化 ①看護師としての基礎的能力の習得、学習活動、経済的支援に努める。 ②社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等専門性の追求や絶えず学び続ける力、多様性や創造性を身につけることができるようにキャリア発達を支援する。 ③コロナ禍における家庭の経済的負担や不安に対する対応や奨学金、修学資金の相談や貸与支援、心の相談・学業相談、就職及び進路相談等に関してより一層、相談しやすい環境や相談体制を整える。 ④学生の生活・学習状況の変化をキャッチし、早期から保護者・カウンセラーと連携し、学業継続ができるよう心のケア（メンタルヘルスケア）を配慮し支援する。 ⑤国試対策として３年間の支援計画の下、国家試験合格１００％をめざす。 (６) 入学生・卒業生への支援 ①プレスクールはコロナ禍において３密を避け、開催方法を工夫し状況に応じてオンラインを活用して実施できるように取り組む。 ②コロナ禍において就職先にスムーズに適応し、離職することなく仕事を継続できるよう卒業後５ヶ月と１年目に里帰りを実施する。コロナの状況によっては３密を避け、開催方法を工夫し状況に応じてオンラインを活用して実施できるように取り組む。 ③就職先との連携、教育へのフィードバックができるよう就職先や実習施設との連携・協働会議等の取り組みに努める。 (７) 広報活動 ①日頃の学校生活等を学校ホームページ及びブログや那覇看便りの発行・充実をめざし、日頃の学校生活等を紹介していく。 ②学校説明会・学校祭・オープンキャンパス等については３密を避け開催方法を工夫し状況に応じてオンラインを活用し、実際の学習内容や学校生活を紹介できるよう取り組んでいく。 (８) 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 ①予測不能な状況において地域活動に積極的に学生ボランティアとして参加することは困難であるが、地域の状況を確認し３密を避け社会につながる環境が整えられた場合には支援をしていく。 ②地域の児童・生徒の学校見学会、職場体験を受け入れ看護職を理解し将来の看護師を目指すきっかけになるように努める。 ③市町村主催の健康講座へ講師派遣等を積極的に行い、地域との交流を推進していく。 ④日本看護学校協議会、沖縄県看護教育協議会との情報交換を進め、他の関連機関との連携に努める。 (９) 後援会及び同窓会活動の支援 ①後援会及び同窓会活動がさらに活発に行えるよう、事務的支援を行う。

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、従来の教育理念として「看護職に必要な人間への深い関心を示す豊かな感性を持った看護実践者を育成する」と明文化していたが、新カリキュラムにむけて教育評価を行い、その結果、新教育理念を『自律した看護師』の育成に修正し看護師養成であることを明確化することができた。『自立した看護師』を育成するために、学校の運営方針について、『那覇看護専門学校事業計画』に明文化した。年度初めに重点目標・事業計画を提示し教職員で周知している。前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。 2022 年（令和 4 年度）に新カリキュラム開始に向け全教職員が改正の趣旨を理解し、社会のニーズに即した新カリキュラム運営に取り組む。 教育理念を実現するために、教育目的・目標を基盤に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを明確化し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の領域ごとにシラバスに掲げ教育計画を立案・明確化した。 新たな教育理念を学生・保護者、関連施設、外来講師等へ浸透させるために、説明会の開催や教育理念を理解しやすいようロゴマークを修正し、周知の工夫を行っていく。今後も後援会や学校便り等にて保護者への周知を図る工夫を行っていく。	学生は「自律した看護師」をめざし主体的に学べるよう、アクティブラーニングを教育活動として展開していく。	入学前授業として、プレスクールを初回は対面で行い、2 回目・3 回目は新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、オンラインプレスクールに切り替え実施。 実習施設と連携協力の下、在学中の支援として行っているティーチングアシスタント（TA）による技術教育は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策により当初計画より回数減で行なった。 学年を超えた交流や学びの共有する機会についてもコロナ禍の影響があり、行事の中止を余儀なくされた。 委員会など少数単位で学生間の交流を行い、学校生活への取り組みに活かしている。 コロナ禍にあっても学生の学びを止めないための教育活動の工夫として、ICT 教育プロジェクトチームを設置し、遠隔授業に関するガイドラインを作成し、学生とともに ICT を活用した活動を取り組むことができた。 授業や実習に関しては、オンラインによるシナリオベースのシミュレーション学習やオンライン学内実習方法、実習先施設や指導者の協力のもとオンライン上でオリエンテーション（動画による施設紹介）やカンファレンス所感の発表などを工夫し展開することができた。 卒業生に対しても卒業後 5 か月目、卒業後 1 年目に里帰りをオンラインにて実施し、卒業後の精神的ケアや、臨床実践能力の支援を行った。
学校関係者評価委員の意見		
継続教育の臨床現場で自律した看護師というのはキーワードになっているので、臨床判断能力や生活を見る視点など基礎教育でどのように育成するか期待している。		

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
従来の教育理念として掲げてきた「看護実践者」の育成について新カリキュラムにおいて「自律した看護師」の育成をしていくという事を明確化した。学校の運営方針は『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。重点目標・事業計画を提示し、前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。『魅力ある選ばれる学校』となるよう、積極的に情報発信し、透明性・客観性を確保し学校の質保障・向上を図っていく。 本校は、教職員会議の場が意思決定の場であり、会議規程を定め、定例会議等を開催し、議事録は開催ごとに作成している。規則・規程等の改正が必要であれば 管理者会議を経て学校運営委員会等で審議し改正していく。教職員の研修計画を取り入れ、自己研鑽の機会とし資質向上を図っている。また、人材確保については、ホームページやナースセンター及びハローワーク等で採用広報を行っている。 令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策に伴い、学生の学びを止めないための方策として「新たな学校生活のためのガイドブック」「臨地実習における感染症対策ガイドライン」を作成し学生や教職員、実習施設の方々等が共通理解できるようにした。 更に、プロジェクトチームを立ち上げ、分散登校や遠隔授業（オンライン授業）と対面授業ができる環境を整えサポート体制の強化、PC などのアップデートに取り組んだ。学生の主体的な学習活動を支援、タイムリーな情報提供を行い、トラブル発生が無いよう、今後も体制を整え取り組んでいく。	安定した対面授業や遠隔授業が行えるような体制づくりと環境整備を今後も継続して行う 通信技術を安全に取り扱うための知識や態度を養うための情報リテラシーについてさらに強化していく必要がある。 電子テキストを採用するにあたり、学内の通信環境の強化、サポート体制の強化 P C 等のアップデートを今後も継続して行う 機材・環境が整えることが困難な学生に対する対応についての取り組み 例）機材の貸出、環境が不具合の時の対応など PC サポート体制を強化していく予定。	学務システムを取り入れ教務事務による効率的な運用ができています。 情報管理システムを構築し、学生へもタイムリーな情報提供ができるよう環境整備をしている。 コロナ禍において学生の学びを止めないための取り組みとして「新たな学校生活のためのガイドブック」「臨地実習における感染症対策ガイドライン」を作成し学生や教職員、実習施設の方々等が共通理解できるようにした。 更に、分散登校による対面授業とオンラインによる遠隔授業を組み入れた授業展開方法を行っている。 学生への情報発信をリアルタイムに実施できるよう、セキュリティ面を考慮し安全かつ迅速に情報を発信・共有するツールとして GoogleworkSpace(旧 Gsuit)を導入し、円滑に学校運営を行っている。 2022 年度は新カリキュラム対応の学生と、現行カリキュラムの学生が学ぶ状況となる。更に本校創立 50 周年記念の節目の年を迎えるため、重点事業計画に取り入れていく。
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程の編成方針、実施方針、職業教育に関する方針を明確に定め明文化している。又、教育到達レベルも明示しており、理念に適合している。 看護師免許取得の意義を伝え、1年次から3年計画のもと国家試験の支援体制を整えている。 教育課程についてはみちしるべ（シラバス）で明確にし、講義、演習、校内実習においては協同学習やシミュレーション、校内実習にはティーチングアシスタント(TA)の教育参加を行うなど工夫している。今年度は新型コロナウイルス感染症の急拡大のため、校内実習におけるTA参加を中止したが、動画を作成しオンラインによる授業方法など工夫して行った。教育課程評価については、在校生による評価を行い課題については改善策を講じて取り組んでいる。キャリア教育評価として卒業生が来校した時に意見聴取を行ってはいるが、計画的な評価には至っていないため、今後は評価時期や評価方法等を明確化していくことが必要である。 成績評価の基準について学則（学生便覧）に規定し、かつ学生に明示している。又、入学前の履修、他の教育機関の履修について学則に明記しており、単位認定会議にて適切に運用している 看護師資格取得の意義、目標、取得までの取り組み内容を明確にし、資格取得に向けて国試対策ゼミや、業者模擬試験等計画的に実施し、指導体制についてもチューター制を取り入れ指導体制を整えている。 看護師国試不合格者に対して、在校生同様に模擬試験を受けさせるなど学習応援プロジェクトが積極的に連携し指導体制を整えている。	キャリア教育評価として卒業生の実態把握を行うために評価時期や評価方法等を経年的に立案していく。	
学校関係者評価委員の意見		
卒業生と就職先等の意見徴収など具体的な計画を立案し、いつまでに何をどうするか企画するとよいと思われるので期待する		

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職率100%を目標に設定している。事務部で就職先を把握しデータ化している。更に県内の実習病院を主にした就職説明会を毎年1回、校内で実施し就職活動の一環となるように開催している。 資格・免許の取得率 看護師資格取得について、100%を目標設定し、1年生から模擬試験や国家試験対策ゼミを3年計画のもと実施している。 毎年、合格実績を学校案内に表示し、全国の合格率とともに比較している。 又、指導方法と結果を分析し指導方法を検討している。 卒業生の社会的評価 卒後の実態を調査で把握することは十分にできていないため、今後は実態把握ができるよう具体的な計画を立案していくことが課題である。	卒業生の社会的評価について、卒後の実態を調査で把握することは十分にできていないため、今後は実態把握ができるよう継年的な計画を立案していく。	
学校関係者評価委員の意見		
卒業生の社会的評価の一つとして、コロナ禍において人道支援として活躍した先輩(卒業生)がいることを後輩へアピールし知らせるとよいのではないか。		

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生への就職等に関しては、学年担当教員と就職担当事務職員は連携しており、学生の就職活動の状況は学内で共有している。学生の学業継続の相談に関しては、各学年チーム担当教員や教務部長が面談、必要時、学校長、保護者も交えて面談を実施している。また、心理カウンセラーの活用の促がしや、必要時、相談医を紹介している。令和元年度退学者は2名であった。 学生の経済面に対する支援として、困窮している学生には各奨学金の紹介や、個別相談に応じている。大規模災害時及び家計急変時等に対する支援制度は整備している。 学生の健康管理では、学校健康診断、抗体価検査、予防接種計画を定め、年1回の学校健診を行い2次検診が必要な学生には随時指導を行っている。健康面で問題がある場合には、担当教員との連携を行って支援している。課外活動の支援は、サークル担当窓口の教員を配置し予算やサークル活動に関しての相談を行っている。 保護者に対して、入学式後に学校説明会を開催し、本校の教育理念・目的・目標及び教育課程内容の説明を行っている。また、後援会役員会及び総会を通して学校の教育活動状況や学校の支援体制について説明し周知を図っている。 卒業生の支援として、同窓会が結成されており計画的に総会や特別講演を開催している。卒後5ヶ月と1年目に「里帰りトレーニング」を開催している。社会人経験者の入学に際し、入学前の履修科目に対して、学則に従って単位認定をしている。		学生の就職等進路 ・就職・進学の情報提供や個別相談を行っている。 ・県外就職の卒業生に対し、就職先訪問を実施。 ・就職試験や履歴書・小論文の書き方、面接時マナー等の支援を行っている。 学生相談の体制 ・各学年の教員が相談窓口として学生を支援している。 ・学生が相談しやすいように男性・女性のカウンセラーを配置している。また、専門医による治療が必要な学生に対しては、相談医リストを提示し、受診できる支援体制を整えている。 学生生活 ・経済的支援制度の情報提供を十分行っている。 日本学生支援機構・沖縄県看護師等奨学資金 教育訓練給付制度・専修学校奨学金給付事業他 ・学生の健康管理に関して、「わたしの健康ノート」を活用し、学校健診、抗体価検査、ワクチン接種状況が管理できるよう指導している。 ・「新たな学校生活のためのガイドブック」を作成し、新型コロナウイルス感染対策の教育を行っている。 保護者との連携 ・学生会が発行している「那覇看だより」で学生生活の情報提供を行っている。また学校 HP も随時更新し情報を発信している。 卒業生・社会人 ・卒後は、5ヶ月と1年目に「里帰り」を開催している。卒業後の研究活動の支援として図書館を開放し、個別での相談も行っている
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言など特になく妥当と思われる		

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・整備等に関しては、看護師養成所の運営ガイドラインに基づき機械器具、標本、模型及び図書を十分に整備している。また、法定点検や日常点検を定期的に行い必要に応じて部品の取替や修繕を行っている。学外学習に関して、臨地実習について教育課程上の位置づけを明確にし、臨地実習要項を作成し適切に運用している。実習施設との臨地実習協議会を開催し、連携を密にしている。また年度末にはユニフィケーション会議を開催し協同学習や現場との意見交換を行っている。臨地実習の教育効果について、目標評価スケールステップアップスケールの活用で基礎的能力・成長過程の評価を確認している。 入学式・宣誓式・卒業式やオープンキャンパス・学校祭等は、学生会を中心に委員会を設立し教職員と共に参画している。また、卒業生・保護者・実習施設等へ学校行事の案内を積極的に行っている。今年度はコロナ禍の影響により、オープンキャンパスはオンラインで開催し、学校祭はオンラインオープンキャンパスへ変更し行っている。また、卒業生・保護者・実習施設等へ学校行事の案内を行っている 学校の防災・安全管理に関して、学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備している。施設・建物・設備の耐震化を確認している。消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき適切に対応している。備品の転倒防止など安全管理している。学内における安全管理体制を整備し、適切に運用している。実習中の災害発生時の学生の安全確保について、マニュアルを作成し臨地実習要項に載せ、学生への説明、実習施設への説明を実施している。		模擬負傷者役を通して防災意識、安全教育 災害看護の演習の一環として、那覇空港航空機事故防災訓練及び那覇市防災訓練へ学生は模擬負傷者役で参加している。 ステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価 臨地実習の教育効果については、各領域の目標評価スケール及びステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価・成長過程の評価を確認している
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言など特になく妥当と思われる		

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集活動に関しては、生徒向けのガイダンスや高校の進路指導教員に対する学校説明会の開催、保護者への学校説明会等、積極的に情報提供に取り組んでいる。また、パンフレットやホームページでの学校紹介にも力を入れている。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりガイダンスが中止となった為学校紹介の機会が減少した。今後はオンラインを含めた新たな学校紹介方法を構築していくことが課題である。 入学選考に関しては、入学選考基準や方法について入試規程に定め運用している。少子化の影響により受験者数が減少していく中、受験者数・辞退者数・受験倍率・合格率を管理し、どのように学生募集に活かしていくかが課題である。 学納金に関しては、県内他校の水準を把握し、経費内容に対応して学納金を算定している	合格率・辞退率などの現況を示すデータから数年分の分析を行い入学選考に活かしていく。指定校については分析データより検討していく。 希望する高校と相談の上、各校個別のガイダンスの実施方法を構築する。	高校の教員に対する学校説明会を実施し、本校の教育の特徴等を説明している。 入学希望者・保護者・高校の教員等一般向けの学校案内パンフレットを作成して広報活動に努めている。 コロナ禍においてはオンラインオープンキャンパスを行い、学校の様子を学生会に協力の下開催することができた。 オンラインオープンキャンパスへ参加された受験生の個別相談にも対応できるような企画を設けて実施した。
学校関係者評価委員の意見		
高校生だけではなく、社会人や保護者向けへアピールする方法を検討してもよいのではないかな。		

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
安定した財務状況である。中長期的にみても学校の財務基盤は安定しており、適切に会計監査も受けている。業務は法令等に従い適正に実施されており、事業報告書は本校の状況を正しく示している。 監査法人による定期監査を実施し指導を受けている。 財務情報はホーム公開体制の環境も整い情報公開している。 予算規程が整備されていないので課題としている。 特にコスト管理においては、支出状況を把握し、項目別にコスト管理を行うよう努力しているが、省エネ対策も含めて電力使用について有効な方策を検討していく事が今後、更に必要である。	予算規定については法人全体で検討することとしていたが、法人全体での整備に時間を要するため学内において内部規程で整備した。 更に、省エネ対策も含めて電力使用について有効な方策を業者から提案いただき有効な方策については中期計画に盛り込んでいく。	県から学校運営費の補助を受けており、財務管理においても県の要綱に従い管理、運営を行っている。
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言は特になく妥当と思われる		

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令の設置基準に基づき学校を運営し届け出ており、運営に必要な規則・規程等は、整備し適切に運用している。社会保険労務士との相談体制についても整っている。個人情報保護に関することや学務システムおよびサイトに関しても、適切に運用している。学生に対しては、意見箱を設置し、教職員のコンプライアンスに関する窓口として顧問弁護士が設置されている。 個人情報保護に関する取り扱い・規程を定め、適切に運用している。学生へは個人情報保護・管理、SNSの取り扱い、通信機器などのマナーなどについては、学校生活や実習における教育指導や特別講義を通して、周知している。 ICT 活用の拡大に伴い、遠隔授業を受講する際の誓約書や情報の取り扱いマニュアルの作成及び研修の計画を立案していく事が必要である コロナ禍により、オンライン講義や実習が導入されたことで、紙媒体やデータなどの活用方法の変化への対応が求められ、適切に運用できるよう、個人情報保護・管理に関して整備していくことが必要である。 学校関係者評価結果は報告書にとりまとめ、学校関係者評価委員会の意見も合わせてホームページに掲載している。	コロナ禍により、オンライン講義や実習が導入され、ICT（情報通信技術）の活用が進められている。ICT活用の拡大に伴い、遠隔授業を受講する際の誓約書や情報の取り扱いマニュアルの作成及び研修の計画を立案していく事が課題である	
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言は特になく妥当と思われる		

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実習施設との連携にも力を入れ、ティーチングアシスタント（T・A）の活用を行い、臨地実習施設と学校の教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、講師のキャリアアップのために認定書を交付している。就職指導に関しては、県内の実習病院を中心に就職説明会を行っている。実習病院や各専門学校、医療系大学、沖縄県と広く連携しながら運営ができています。学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放の方向だったが、コロナ禍のため、一部オンラインなど方法を工夫した。 ボランティア活動など社会活動については、コロナ禍のため、積極的な参加はできなかったが、新型コロナウイルス感染症対策について、国や県のガイドラインに沿って、学生会活動、委員会活動へつなげ、学校全体で取り組んでいる。今後の中長期的な事業計画として地域共生社会（SDGs）への活動を明記し、できることや身近なことから取り組めるよう勉強会や研修会を企画していく必要がある。	ボランティア活動など社会活動については、地域の状況を確認し、感染対策を行い、社会につながる環境が整った場合は実施していく。 社会活動については、世界全体が共に取り組むべき普遍的な目標である、持続可能な普遍的な目標（SDGs）に関する研修会を教職員研修として企画していく。	『認定書交付』 学校と実習施設との連携として教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、技術教育に携わった方、講義を行った方へキャリアアップの成果として認定書を交付している。 学生会活動（ボランティア活動） ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励し、学生の活動実績を評価し、卒業時に表彰している。
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言は特になく妥当と思われる		

4 令和3年度重点目標達成についての自己評価

令和3年度重点目標	達成状況	今後の課題
1 安定した学校運営	1. 安定した学校運営 教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定化については、均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努めることができた。 年度末に学校運営全般の自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし、結果を公表することができた。	・安定した対面授業や遠隔授業が行えるような体制作りと環境整備を継続して行っていく事。
2 教育課程の円滑な運営	2. 教育課程の円滑な運営 外来講師の確保定着については問題なく行えた。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、7クール全て実習施設における臨地実習は行えなかったが、実習細切のご協力の下、学生の学びの保証ができるよう、学内実習に置き換え、オンライン、動画などあらゆる教材を活用・工夫し、よりリアリティーに近い実習が実践できるよう工夫し行うことができた。 臨地実習非常勤教員のマンパワーにおいては支障なく運営することができた。 看護職に必要な自己教育力、社会人・組織人としての基礎的力の育成については、オンライン実習評価ができるよう評価表を見直し「step up スケール 看護師として必要な基礎力」を継続的に活用し学生自身で自己評価を行い、自己成長を確認することができた。実習指導者とのユニフケーション会議における対面による情報交換は中止しオンライン会議及び書面会議とした。技術教育については実施可能な時期に関わって頂くことはできた。学則変更に伴う新カリキュラムを完成させることができた。	・令和4年度は新カリキュラム開始年度となり、新カリキュラム及び現行カリキュラムによる学校運営を行うため、スムーズな学校運営、選ばれる学校をめざし、教職員協力し取り組んでいく
3 教職員の資質の向上	3. 教職員の資質の向上 年度初めに計画していた研修がコロナ禍において中止及び延期になる者があったかったが、オンライン研修会が企画されたものについて受講する機会ができた。新任教員研修会も他校の新任教員も参加し実施することができた。キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を年2回(中間・年度末)実施することができた。	
4 教育環境の整備	4. 教育環境の整備 運営ガイドラインに基づき機械器具、模型や図書を十分に整備し、図書室については20時まで開放し学生が学習しやすいように体制を整えることができています。施設整備に関しては、法定点検や日常点検を定期的に行っている。駐車場の整備も行うことができた。花壇の美化については時期により手入れを行っているが、十分には行き届いていない。感染予防策として学校の玄関前に非接触型サーモグラフィを設置し学生、教職員、外部の来校者等の体温管理が定着している。「本校の新たな学校生活様式」ガイドラインに基づき予防策を強化している。学生の机にはパーテーションを設置し、会食時の感染予防策、ソーシャルディスタンスを徹底して実践している。	

令和３年度重点目標	達成状況	今後の課題
5 学生支援の強化 6 入学生・卒業生への支援 7 広報活動 8 周辺地域及び学校との交流 及び他校との情報交換 9 後援会及び同窓会活動の 支援	5. 学生支援の強化 学生自らがセルフチェックできるよう「私の健康ノート」に毎日登校前、昼食前、下校時の体温測定を行い記載できるようにした。経済的支援として各奨学金の紹介や個別相談に対応することができた。 ②社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等キャリア発達を支援する。③国試対策として3年間の支援計画の下、国家試験合格 100%をめざし、教員及び学生の国試対策委員会を中心にかかわることができた。 6. 入学生・卒業生への支援 入学前支援として、入学予定者へプレスクールを初回は対面で行い2回目、3回目はオンラインにて実施することができた。卒業後支援として卒後5か月目と卒後1年目に里帰りをオンラインで実施することができた。就職先との連携・教育へのフィードバックができるよう就職先訪問を計画していたが、コロナ禍により訪問は中止した。 7. 広報活動 日頃の学校生活等について学校ホームページで紹介することができた。学校説明会は中止した。学校祭は中止し、ICT プロジェクトチームおよび学生会の協力の下、オンラインにて実施することができた。 8. 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 学生のボランティア活動はコロナ禍にあり募集もなく参加することができなかった。地域の児童・生徒の学校見学会の申し出や職場体験等もなかった。 沖縄県看護教育協議会との情報交換については校長役員会や再教育研修会、領域会議等を通して情報交換はできている。 9. 後援会及び同窓会活動の支援 後援会及び同窓会活動がさらに活発に行えるよう事務的支援を行った。	